

# 中国地方 キラリ企業

鉄道車両部品などの山下工業所（山口県下松市）は新幹線の「顔」に当たる部分を打ち出し板金で製造する会社として知られる。日立製作所笠戸事業所（同）などからの要請で鉄道向けの拠点を拡充したほか、中長期的に大きな需要の見込める半導体製造装置部品部門にも投資。脱炭素に向けた取り組みも進める。

J R下松駅から山陽本線沿いの道を広島方面に車で10分弱ほどの場所にあるのが山下工業所の本社と本社工場だ。目と鼻の先には主要取引先である日立製作所の車両部門に向かう道がある。

「納品に便利な場所にある。会社が成長したのは創業以来、日立グループの要請に応えてきたか

## 新幹線の「顔」も半導体も



山下工業所は鉄道車両部品の製造で培った板金技術でバイオリンも作り上げた（山口県下松市）

山下工業所

（山口県下松市）

ら」。山下竜登社長は強調する。鉄道車両部品で知られる同社だが、半導体関連の参入も1980年代と歴史を重ねる。半導体部門の主な取引先は日立ハイテクで、車両部門と同じ下松市内にある。山下社長は「国鉄分割が決まり、車両受注がなくなった時に日立が声をかけてくれた」と明かす。

山下工業所の強みは薄いアルミ板などをハンマーでたたき様々な形にする

この技術を応用したのが半導体製造装置関連事業だ。装置のカバーやガスの流量の調整に使われる部品を生産する。技術力

## 板金に強み、納期柔軟対応

ただでなく、需要の変動の激しさによる納期への柔軟な対応力を日立グループが評価。ここ数年は増産体制が続く。

このため、20年と23年には大型設備投資に踏み切った。鉄道部品工場を増築し面積を倍増し、半導体向け製造拠点も生産能力を2.5〜3倍に強化。本社工場を増築し、食堂を出荷場に改修した。設備投資は総額4億円超で、会社の年間売上高に匹敵する規模だ。

ただ、鉄道部門は新型コロナウイルス禍の影響で受注が後ずれしている。半導体部門も中国な

どの景気低迷で、需要が回復したとは言いがたい。山下社長は「鉄道関連は回復までに2年ほどかかる。半導体が戻るときは急激」とみる。

同社は打ち出し板金とアルミ溶接の技術を維持するため、主力取引先の日立と競合しない分野の単発案件を検討。新幹線先頭車両の加工技術をアピールするため、バイオリンなどの木製楽器を金属で作ったこともある。建築関連の単品・少量品などを想定しているという。

脱炭素化にも取り組む。山口県などによる「やまぐち中小企業脱炭素化促進支援事業」を活用。山口フィナンシャルグループ子会社のワイエムコ（WMC）の支援を受け、二酸化炭素（CO2）排出量の算定や削減に向けたロードマップ策定に取り組んだ。山下社長は「今後も取引先や脱炭素など社会の要請などに柔軟に取り組むこと」を約束している。

会社概要	
所在地	山口県下松市
設立	1963年
売上高	4億5000万円（23年10月期）
従業員数	44人
事業内容	鉄道車両・半導体関連部品製造

中国

配達購読のお問い合わせ  
0120-012114  
946  
7時〜21時

岡山 0852-1224  
広島 0856-1222  
鳥取 0857-1222